

キー・ラーゴ

Key・Largo

鑑賞日：2016・6・27

制 作 1948 年 アメリカ映画 モノクロ 上映時間 101 分
監 督 ジョン・ヒューストン 原 作 マクスウェル・アンダーソン
脚 本 リチャード・ブルックス、ジョン・ヒューストン
主 演 ハンフリー・ボガート、ローレン・バコール、
エドワード・G・ロビンソン、ライオネル・バリモア、クレア・トレヴァー
受 賞 アカデミー助演女優賞（クレア・トレヴァー）

（あらすじ）

フロリダ半島の南の小島キー・ラーゴ島に第二次大戦の復員将校、フランク・マクラウド元少佐（H・ボガート）が訪れた。イタリア戦線で失った部下の家族に挨拶するためである。部下の父親のテンプル老人（ライオネル・バリモア）は島でただ一軒のホテルを経営しており、息子の未亡人のノーラ（ローレン・バコール）と住んでいる。ホテルの客はブラウン（E・G・ロビンソン）を頭とする5人の怪しい男たちで、ゲイ（クレア・トレヴァー）という女を連れこんで泊っているだけだったが、フランクは、頭の顔を見て彼が有名なギャングの頭目ジョニー・ロコであることを知った。ジョニーは偽札を多量に持った仲間が、夜、船でホテルに来るのでそれを待っているのである。そのため、テンプル老人とノーラを拘束して、脱獄した先住民を探しに来た保安官の部下のソーヤーを殺して仲間を待っている。戦争のためひどい虚脱感に陥っているフランクはそれを見ているだけである。

夜が更けてハリケーンは強烈となった。ロコはホテルに避難してきた先住民を追い払い、情婦のゲイをなぶり始めた。フランクはロコに反抗してゲイをかばった。数時間後、駆けつけた保安官はソーヤーの死体を見つけたが、ロコは先住民が殺したと言って保安官をだました。やがて、ギャング仲間が来て偽札の取引が行われ、一味は船で逃げる算段をしていたが、ハリケーンのため予約していた船は来ない。ロコはフランクを脅かし、ホテルの船を操縦してキューバへ運べと命令した……

（解 説）

原作は劇作家マクスウェル・アンダーソンの舞台劇で、脚色はリチャード・ブルックスとジョン・ヒューストンが共同で行った。ドラマは主にホテル内で展開される。ギャングの頭のロコとテンプル老人、フランクの心理的駆け引きが緊迫感を増す。時折反発するテンプル老人が言葉を発する度に、ロコの拳銃の引き金にいつ手がかかるかハラハラさせられる。ここらあたりがハードボイルド映画の真骨頂であろう。ドラマはこれに迫りくる風速 90m級のハリケーンへの恐怖が加わり、緊迫感が一層増してくる。クローズアップの巧みな使用法などヒューストン監督の腕が冴える。ホテルの船に乗り換えるとフランクは一瞬の隙を突いてギャングを掃討する。ラストのまとめ方もうまい。まさにハードボイルド映画の傑作といえよう。